

佐賀県研究成果情報

緑茶用新品種「はるのなごり」の佐賀県における特性					
【要約】 緑茶用新品種「はるのなごり」は、荒茶品質が「やぶきた」「おくみどり」と同等で、収量が多く、炭疽病、輪斑病の発生が少ない晩生種である。					
佐賀県茶業試験場・茶樹研究担当				連絡先	0954-42-0066
部会名	茶業専門部会	専 門	栽培	対象	茶

【背景・ねらい】

系統適応性検定試験第9群の系統の中で、本県での成績が優れ、全国的にも評価の高かった緑茶用新品種「はるのなごり」（旧系統名「宮崎25号」）は、品種登録の出願公表がなされた。これに伴い育成地における品種特性が成果情報として発表されているが、本県とは栽培環境が異なることから、本県における生育及び品質特性を明らかにし、普及の参考とする。

【成果の内容・特徴】

1. 「はるのなごり」の萌芽期、摘採期は、「やぶきた」より4日程度遅く、「おくみどり」とほぼ同期の晩生種である（表1）。
2. 「はるのなごり」は定植後の生育が旺盛で、株張りが優れ、成園になるのが早く、「やぶきた」より収量が多い（表2）。
3. 「はるのなごり」の荒茶品質は、「やぶきた」「おくみどり」と同等である（表3）。
4. 「はるのなごり」は炭疽病、輪斑病の発生が少なく、クワシロカイガラムシの加害も少ない（表4）。

【成果の活用面・留意点】

1. 県内全域に導入可能であるが、初霜期に裂傷型凍害が発生しやすいので、幼木期の管理には注意する。
2. 苗木は、許諾を受けた育苗業者から購入する。
3. 育成地における品種特性は、平成19年度九州沖縄農業研究センター研究成果情報 http://konarc.naro.affrc.go.jp/kyushu_seika/2007/2007249.html で閲覧できる。

[具体的データ]

表1 一番茶萌芽期、摘採期

品 種	2004年		2005年		2006年		3ヵ年平均	
	萌芽期	摘採日	萌芽期	摘採日	萌芽期	摘採日	萌芽期	摘採日
はるのなごり	4.14	5.7	4.10	5.4	4.14	5.12	4.13	5.8
やぶきた	4.11	5.4	4.9	5.2	4.8	5.6	4.9	5.4
おくみどり	4.16	5.10	4.14	5.7	4.16	5.11	4.15	5.9

表2 生葉収量 (kg/10a)

品 種	2004年		2005年		2006年	
	一番茶	二番茶	一番茶	二番茶	一番茶	二番茶
はるのなごり	249	279	333	448	641	570
やぶきた	152	211	243	161	364	303
おくみどり	283	295	330	303	452	415

2004年は定植(2年生苗)4年目に当たる
畝間180cm、株間30cmの単条植え

表3 普通審査法による荒茶品質

年	品 種	一番茶					二番茶						
		形状	色沢	香気	水色	滋味	合計	形状	色沢	香気	水色	滋味	合計
2004年	はるのなごり	8.0	9.0	6.5	7.5	5.5	36.5	5.5	6.0	4.5	5.5	4.5	26.0
	やぶきた	5.5	7.0	8.0	7.5	8.0	36.0	4.0	5.5	4.5	6.0	5.0	25.0
	おくみどり	5.5	7.5	7.5	7.5	7.5	35.5	4.0	5.5	4.5	5.0	4.5	23.5
2005年	はるのなごり	8.0	8.0	7.5	9.0	9.0	41.5	5.0	5.5	6.5	7.0	6.5	30.5
	やぶきた	7.0	7.5	8.5	8.0	8.5	39.5	6.0	5.5	4.0	4.0	5.5	25.0
	おくみどり	8.5	8.0	9.0	7.5	9.0	42.0	6.0	4.5	6.0	6.0	7.0	29.5
2006年	はるのなごり	7.5	7.5	7.0	8.5	8.0	38.5	5.5	6.5	6.5	7.5	5.5	31.5
	やぶきた	7.0	7.0	7.0	8.5	7.5	37.0	5.0	4.0	4.0	6.5	4.5	24.0
	おくみどり	7.0	8.0	7.5	7.0	7.0	36.5	4.0	5.0	6.0	6.0	5.0	26.0

各項目10点、合計50点満点での評価

表4 病虫害発生程度

品 種	炭疽病	輪斑病	クシロカイガラムシ
はるのなごり	1.3	1.0	1.5
やぶきた	2.8	1.3	2.7
おくみどり	3.8	1.0	2.5

2003~2006年の平均値 (無) 1~(甚) 5

病害及びクシロカイガラムシの防除は行っていない

[その他]

研究課題名：優良品種導入のための県内適応性検定及び栽培法の確立

予算区分：県単

研究期間：平成13~22年度

研究担当者：東島敏彦、野中一弥、伊藤央子、灰塚士郎、釘本和仁、山口史子

発表論文等：なし